



期末考査2週間前になってしまいました。気持ちは定期考査に向いている人もいるかもしれませんが、C組の運動会の作文を紹介します。

<敬称略>

上級生として

C組

私は今回の運動会を終えて、協力することの大切さを学び、上級生としての力を発揮することができたと思います。二学年の学年種目「大縄跳び」では、C組全員が跳ぶタイミングを合わせ、団結しなくてはなりません。当日の記録は、合計で百九十九回。練習の時よりも回数が増え、二百回直前まで伸びたことは、みんなの情熱が詰まった素晴らしい結果だと思えました。

また全員リレーは、今までのバトンパス練習の成果が出たと思います。初めてのアンダーハンドパス。最初はうまくいかず、大きな不安を抱えて練習していました。しかし、「あきらめない」という仲間の言葉に励まされ、練習を重ねるほど、バトンパスがスムーズにできるようになりました。当日、緊張の中に鳴り響くスタートの合図。あせりながらも、渡されたバトンに思いを込めて、一生懸命に走りました。結果は1位。

2年C組は学年優勝を勝ち取ることができました。でも、私たちは優勝するためだけに頑張ったわけではありません。一人一人が「全力を尽くす」、「周りをみて自分の態度をわきまえる」、「全力で楽しむ」。これらの目標を達成してきたこと。2年生に進級し、成長した姿を見せることができたことが、何よりの成果だと思っています。

次の行事として「合唱祭」があります。運動会練習で培った力や思いを、これからの学校生活に大いに発揮し、更に努力を続けていきたいと思いました。



優勝

C組

四月の委員決めの時、体育行事委員だけが決まらなかった。その後、先生から「体行やらないか？」と声をかけられて引き受けたものの、最初はやる気がなかなか出なかった。しかし、運動会に向けて運営活動、準備に取り組むうちに、少しずつ「やりがい」を感じるようになった。

初めての体育行事委員、大変なことがたくさんあった。クラスのリーダーとして、みんなをまとめること。運動会に向けて、様々な運営活動もある。まだ仕事にも慣れていないのに、みんながついてきてくれるかどうか不安だった。委員会の仕事が続く、放課後の話し合いが多く、朝から活動するときもあった。自分の時間が奪われるような気持ちになることもあった。

そして始まった運動会練習。まずは、自分と同じ委員会の山端さんで全員リレーの走順を決めた。「これでいいのか？」と不安もあったが、練習を重ねるたびに走順を調整し、クラスのベストタイムが出るように工夫を重ねた。初めて全員リレーで他クラスと対決した。結果は勝利。成果はあったが、課題も多かった。更に良いものを目指して、全員で頑張り続けた。

大縄跳びの練習が始まったときは、まったく跳べなかった。それでイライラすることもあった。でも、全員でどうすればいいのか、何回も話し合った。初めての他クラスとの対決も勝利。そのまま予行練習まで、好記録が続いていたが、運動会前日の練習では調子を落とした。他のクラスも記録が伸びてきた焦りや不安を感じた。

そして迎えた運動会当日。全員リレーの記録は9分12秒というすごく速いタイムで、初めての1位を取ることができた。大縄跳びでは男子が100回以上、女子も60回以上跳び、合計して今までの最高記録199回で1位。そして選抜リレーでは2位。そのおかげで総合優勝することができた。

体育行事委員の立場になって、クラス、学年、学校全体が一つの目標に向かって取り組むことの大変さが、よく分かった。これからも行事などに取り組むときには、今回、学んだことを活かし、クラスの一員として、どんなことにも全力で取り組んでいきたい。

